

プラムポックスウイルス (plum pox virus) とは

1. 特徴

モモ、スモモなどの*Prunus*属の植物に広く感染する重要な植物ウイルスであり、1915年にブルガリアで発見されて以来、欧州、アジア、北米、南米等でも発生が確認されている。

2. 感染経路

アブラムシにより媒介されるほか、穂木や苗を経由して感染する。生果実は感染経路とはならないとされている。

3. 症状・被害

葉に退緑斑点や輪紋が生じるほか、果実の表面に斑紋が現れ、商品価値が失われたり、成熟前の落果により減収するとの報告がある。なお、ウメではこれまで世界的にも被害の報告はなかった。

今回発生が確認された青梅市のウメでは、これまでのところ果実への顕著な症状は見られておらず、葉の輪紋や花弁のブレーキング症状（斑入り症状）が見られる。

4. 防除方法

アブラムシの防除の徹底、感染樹の除去、無病健全な苗の使用。

5. 宿主植物

*Prunus*属の果樹（モモ、スモモ、ネクタリン、アンズ、サクラ（オウトウ）など）、セイヨウマユミ、ナガバクコ、ヨウシュイボタなど

6. 主な発生国

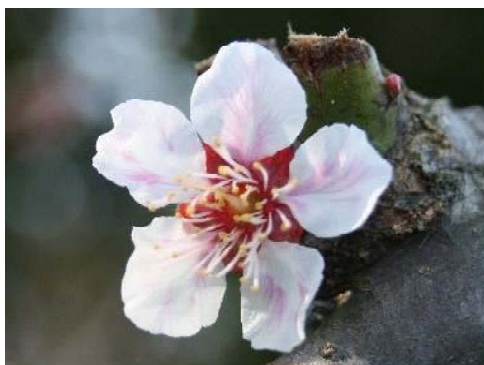
アジア：中国、イラン、インド、トルコなど

ヨーロッパ：ブルガリア、ベルギー、フランス、イタリアなど

アフリカ：エジプト

北アメリカ：米国、カナダ

南アメリカ：アルゼンチン、チリ



ウメの花弁の症状



ウメの葉の症状